



# 原油高のなかの「中銀ウィーク」

3月の第3週は日米欧ほかの中央銀行の金融政策会合が集中した「中銀ウィーク」でした。

まずはドル円相場や株価に影響の大きい日米の金融政策について確認しておきましょう。

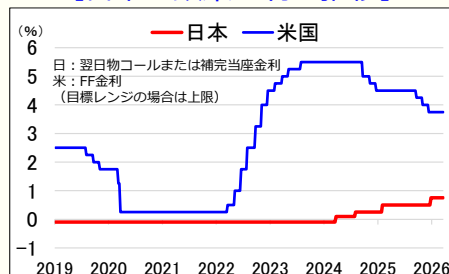
## <POINT>

- 米FRBは「利下げ」を見送り、追加利下げには慎重姿勢
- 日銀は「利上げ」を見送り、中東情勢の影響を見極め
- 米利下げ期待の後退がドル高・株安の要因に

## 原油高が金融政策のかく乱要因に

- FRB(連邦準備制度理事会)は3月17-18日にFOMC(連邦公開市場委員会)を開催し、**政策金利を据え置きました**。原油高などで**インフレ動向が不確実な**状況のなか、2会合連続での据え置きです。
- 公表された経済見通しでは、**成長率の予測を長期的に引き上げた一方、インフレは短期的な上振れにとどまる**との見方を示したほか、政策金利は**今年1回の利下げ**を予測しました。ただパウエル議長は、**インフレが改善しないと利下げしないと述べたほか、利上げの可能性についても否定しておらず、市場では年内利下げなしとみる向きが増えています**。
- 一方、**日銀**は18-19日に金融政策決定会合を開催し、**政策金利を据え置きました**。植田総裁は、中東情勢悪化前は景気・物価は順調だったとしつつ、影響を**4月会合で点検すると述べました**。ただ今会合では物価の下振れより上振れのリスクに言及する**委員のほうが多かった**と付け加えており、中東リスクを見極めつつ利上げ路線は維持したい印象です。市場は19日現在、**4月利上げの可能性を6割程度**とみています。
- FOMC後、**米利下げ観測の後退**を受け、為替は**ドル高、株価は大幅安**となりました。しかし日銀会合後、総裁が**4月利上げに含み**を持たせたことで、為替は**やや円高**方向に戻りました。金融政策の見通しは為替や株価に大きく影響しますが、中東情勢の先行きや影響が読みにくいなか、両國中銀の今後のかじ取りが注目されます。

### 【日米の政策金利の推移】



※2019年初～2026/3/19、週次  
(出所) QUICKよりちばぎんアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。